



International Women's Day：授業アイデア（簡単版）

国際女性デーをテーマにした英語の授業アイデア 5本

Class _____ No. _____ Name _____

1. 1857年の謎を解け：由来の探偵ゲーム

高校・25分

🔍 「よく知られた由来」を資料で確かめる力をつける。

1. 「国際女性デーは1857年のニューヨークのデモが由来」という説明を見せ、本当か予想させる。
2. ヒントカードを配る（1857年3月8日は日曜日／当時の新聞に記事がない／話が初めて出たのは1955年）。
3. 班で「本当／ウソ／わからない」を判定し、理由を英語1文で書く。
4. 本当の由来（1917年ペトログラード）を本文で確認し、なぜ作り話が広まったか話し合う。

2. Thank You カード：身近な女性への英語メッセージ

中学・15分

🔍 感謝の気持ちを英語の短い文で書けるようにする。

1. greetings の表現（Thank you for everything you do. など）を音読する。
2. 母・祖母・先生・友だちなど、カードを贈る相手を1人決める。
3. I want to thank you because ～. の形で2～3文書き、ミモザの絵を描く。
4. ペアで読み合い、相手のカードのよい表現を1つ伝える。

3. 花の国・デモの国：世界の3月8日マップ

高校・30分

🔍 同じ記念日でも国によって意味が違うことを比べて説明する。

1. 国別くらの表を班ごとに2か国ずつ分担する。
2. その国の過ごし方を「Flowers / Holiday / Protest」のどれに近い地図に色分けする。
3. なぜその国はその形になったのか、歴史と結びつけて仮説を立てる。
4. 英語で1分発表する（In Italy, people ... because ...）。

4. 数字で見るジェンダーギャップ・ディベート

大学・45分

🔍 統計を根拠に英語で意見を述べる。

1. ジェンダーギャップ指数（2025年、日本は148か国中118位）と分野別の結果を読む。
2. 論題「Japan should set a quota for women in politics.」を示し、賛否に分かれる。
3. advanced の英文と統計から根拠を3つ集める。
4. ディベートを行い、最後に自分の本当の意見を英語で100語書く。

5. 3分スピーチ：わたしの「すごい女性」

英会話教室・20分

🔍 人物紹介の英語を使ってスピーチする。

1. クララ・ツェトキンや山川菊栄など、本文に出てくる女性を例に、人物紹介の型を確認する（She was born in ... / She is famous for ...）。
2. 自分が尊敬する女性（有名人でも家族でもよい）を1人選ぶ。
3. その人の「すごいところ」を3つ英語でメモする。
4. 1人3分でスピーチし、聞き手は質問を1つする。



1. 1857年の謎を解け：由来の探偵ゲーム

授業手順書（詳細版）／対象：高校／25分

Class _____ No. _____ Name _____

🎯 ねらい

「よく知られた由来」を資料で確かめ、本当・ウソ・わからないを根拠つきで判定し、その理由を英語1文で書ける。

📁 準備

- よく知られた説明のカード：International Women's Day began with a march by women workers in New York on March 8, 1857.
- ヒントカード3枚：① March 8, 1857, was a Sunday. ② No newspaper from 1857 reported the march. ③ The story first appeared in a French newspaper in 1955.
- 判定シート（True / False / We can't be sure と、理由の英文1文）
- このサイトの英語ページ本文（第1～第3段落）と、記事の「よくある誤解とホント」の節

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	よく知られた説明のカードを見せ、「国際女性デーは1857年のニューヨークのデモが由来。本当？」と聞く。日本語の解説でもよく見る話であることを伝え、手を挙げさせて予想をとる。	説明を読み、本当かどうか予想する。	"Read this card. Many websites say this." "Is it true? Raise your hand if you think so." "Today, you are history detectives. Let's check the evidence."
展開1	8	班にヒントカード3枚を配り、1枚ずつ読んで「この事実は何を意味する？」を話し合わせる。最後に True / False / We can't be sure を判定し、理由を英語1文で書かせる（We can't be sure because no newspaper reported it in 1857.）。	ヒントカードを読んで班で話し合い、判定と理由を英語1文で書く。	"Read the three hint cards." "March 8, 1857, was a Sunday. Why is that important?" "Decide. True, false, or we can't be sure?" "Write your reason in one sentence."
展開2	8	各班の判定と理由を聞く。そのうえで英語ページ本文を読ませ、本当の由来（1909年のニューヨークの Woman's Day、1910年のツェトキンの提案、1911年3月19日の最初の国際女性デー、1917年3月8日のペトログラード）を確かめる。	判定を発表し、本文で本当の由来を確かめる。	"Tell us your answer and your reason." "Now read the passage. When was the first International Women's Day?" "Why do we celebrate on March 8?" "Yes. To remember the brave women of Petrograd in 1917."
まとめ	5	「なぜ作り話が広まったのか」を班で話し合わせる。研究者の説（冷戦の時代に、ソ連のイメージから離れたアメリカの起源を与えた）を紹介し、由来を確かめる大切さをまとめる。	作り話が広まった理由を考え、研究者の説を聞く。	"Why did this story spread? Talk in your group." "Some researchers think it gave the day an American origin during the Cold War." "Always check the evidence!"

📝 板書例

The 1857 Mystery

"IWD began with a march in New York on March 8, 1857." → ?

Hints :

- ① March 8, 1857 = Sunday
- ② no newspaper report in 1857
- ③ first printed in a French newspaper in 1955

Real history :

1909 New York : Woman's Day (Feb 28)
1910 Clara Zetkin : "one women's day in every country"
1911 Mar 19 : first IWD (over one million people)
1917 Mar 8 : Petrograd → "bread and peace"

We can't be sure / It is false because ____.

✅ 評価のポイント

- ヒントの事実から、判定の根拠を論理的に考えられたか。
- 判定の理由を because を使って英語1文で書けたか。
- 本文から本当の由来を正しく読み取れたか。

👉 つまづきへの手だて

- ヒントの意味がつかめない班には、「日曜日に工場のストライキ？」「新聞に記事がない？」と問いを足す。
- 英文が書けない生徒には、We can't be sure because ____ の型と、ヒントカードの文をそのまま使ってよいとする。
- 年号が多くて混乱する生徒には、年表の形で板書を整理する。

🚀 発展

- ロシア革命は3月8日に始まったのに「二月革命」と呼ばれる理由（当時のロシアの暦では2月23日）を調べる。
- 日本の行事で「よく知られた由来」が本当か確かめられていない例を1つ探し、同じ方法で判定する。
- 基本セット p.2 の4択・TF で本文の内容を確かめる。

📖 使う教材

- このサイトの英語ページ本文と音声
- このサイトの記事の「よくある誤解とホント」の節
- 基本セット p.2 (4択・TF)



2. Thank You カード：身近な女性への英語メッセージ

授業手順書（詳細版）／対象：中学／15分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

身近な女性に向けて、I want to thank you because ～. を使った感謝のメッセージを英語で2～3文書ける。

準備

- カード用の画用紙（1人1枚）と黄色の色ペン
- あいさつ表現のカード：Happy International Women's Day! / Thank you for everything you do. / These flowers are for you.
- ミモザの写真
- 語群（cook for me / help me with my homework / always listen to me / teach me ... など）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	3	ミモザの写真を見せ、イタリアでは3月8日にこの黄色い花を女性に贈ることを紹介する。あいさつ表現のカードを全員で音読する。	写真を見て習慣を知り、あいさつ表現を音読する。	"This is mimosa. In Italy, people give it to women on March 8." "Let's read these. Happy International Women's Day!" "Thank you for everything you do."
展開1	7	カードを贈る相手（母・祖母・先生・友だちなど）を1人決めさせる。I want to thank you because ～. の形で2～3文書き、ミモザの絵を描かせる。語群から選んでもよいと伝え、机間指導で表現を助ける。	贈る相手を決め、感謝のメッセージを英語で2～3文書き、ミモザの絵を描く。	"Choose one woman. Your mother, your grandmother, a teacher, or a friend." "Write: I want to thank you because you always listen to me." "Add one more sentence. Then draw some mimosa."
まとめ	5	ペアでカードを読み合い、相手のカードのよい表現を1つ伝えさせる（I like "you always listen to me."）。カードは持ち帰って渡すように伝える。	ペアでカードを読み合い、よい表現を1つ伝える。	"Read your card to your partner." "Tell your partner one nice phrase. I like your sentence about ..." "Take your card home and give it to her!"

板書例

🌸 March 8 : International Women's Day
Italy → mimosa (yellow flowers)

Happy International Women's Day!
Thank you for everything you do.
I want to thank you because you _____.
These flowers are for you.

評価のポイント

- because の後ろに、相手がしてくれることを具体的に書けたか。
- あいさつ表現を正しく使ってカードを完成できたか。
- 相手のカードを読んで、よい表現を見つけて伝えられたか。

つまづきへの手だて

- 文が思いつかない生徒には、語群から選んで書き写させる。
- 家族に書くのがむずかしい事情の生徒もいるので、先生・友だち・好きな有名人など、相手は自由に選んでよいことをはじめに伝える。
- 絵が苦手な生徒には、黄色の丸をたくさん描くだけでミモザになると示す。

発展

- イタリアでミモザが選ばれた理由（1946年、スマイルは高く、ミモザは3月に咲いて安く手に入った）を英語ページの会話から読み取る。
- 基本セット p.7 の作文（A woman I respect is _____ because _____）に取り組む。
- アクティビティ集 B3 ロールプレイで、ローマでのハルトとジュリアの会話を役割読みする。

使う教材

- 基本セット p.7（作文）
- アクティビティ集 B3（ロールプレイ）
- このサイトの英語ページの会話と音声



3. 花の国・デモの国：世界の3月8日マップ

授業手順書（詳細版）／対象：高校／30分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

国によって3月8日の過ごし方がちがうことを比べ、歴史と結びつけて In ～, people ～ because ～. の形で英語で説明できる。

準備

- 国別くらべの表（ロシア・イタリア・中国・ドイツ・スペイン・ベトナム・アメリカ・日本の英文と和文）を班に配る分だけ
- A3の白地図（班に1枚）と3色のペン（Flowers＝黄、Holiday＝緑、Protest＝紫）
- このサイトの英語ページ本文（第4・第5段落）と、advanced の英文第1段落
- 発表用の型を書いたカード

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	英語ページ本文の第4段落を聞かせ、ロシア・イタリア・中国・スペインの過ごし方のちがいを確かめる。「花を贈る国」「休みの国」「デモの国」の3つの型を示し、地図の色分けのルールを説明する。	本文を聞いて4か国のちがいをつかみ、3つの型と色分けのルールを知る。	"Listen. What do people do in Russia? In Italy? In Spain?" "Some countries give flowers. Some have a holiday. Some march in the streets." "Yellow for flowers, green for holiday, purple for protest."
展開1	8	4つの班に国別くらべの表から2か国ずつ分擔させる。その国の過ごし方を読み、Flowers / Holiday / Protest のどれに近いかを決めて地図に色をぬらせる。2つ以上にあてはまる国は、色を重ねてよい。	担当の2か国の英文を読み、どの型に近い決めて地図に色をぬる。	"Read about your two countries." "Is it flowers, a holiday, or a protest? Maybe two of them." "Color the map."
展開2	8	「なぜその国はその形になったのか」を、歴史と結びつけて仮説を立てさせる（ロシア＝1917年のペトログラードの国、イタリア＝1946年に女性団体がミモザを選んだ、スペイン＝2018年の同一賃金を求めるストライキ など）。記事や本文から根拠を探させる。	担当国の過ごし方の理由を、歴史と結びつけて考え、根拠を探す。	"Why is the day like this in your country? Make a guess." "Look for clues in the passage and the article." "Russia is where the 1917 march happened. Does that help?"
展開3	7	各班が1分ずつ英語で発表する（In Italy, people give mimosa because women chose it in 1946.）。発表に合わせて黒板の大きな地図に色をぬっていく。	担当の2か国について、理由をつけて1分で英語で発表する。	"Each group, one minute." "Use this pattern. In Italy, people give mimosa because ..." "Let's color the big map together."
まとめ	3	advanced の英文第1段落の Critics argue that the flowers and chocolates have turned a day of struggle into a day of polite compliments. を紹介し、「花」と「デモ」のどちらも大事か、一言ずつ意見を書かせる。	花とデモの2つの面について、一言意見を書く。	"Some people say flowers turned a day of struggle into a day of compliments." "Do you agree? Write one sentence."

板書例

Flowers 🌸 / Holiday 🟢 / Protest 🟡

Russia : holiday + flowers (Petrograd 1917)

Italy : mimosa (chosen in 1946)

China : half a day off for women

Germany : holiday in Berlin (since 2019)

Spain : protest (2018 : strike for equal pay)

Vietnam : two women's days (March 8 and October 20)

the U.S. : Women's History Month

Japan : not a holiday, more mimosa every year

In ____, people ____ because ____.

評価のポイント

- 担当国の過ごし方を英文から正しく読み取り、型に分類できたか。
- 過ごし方の理由を、歴史的な事実と結びつけて説明できたか。
- In ～, people ～ because ～. の形で英語で発表できたか。

つまづきへの手だて

- 英文が難しい班には、国別くらべの和文を先に読ませてから英文を確かめさせる。
- 理由が見つからない班には、記事の該当する段落を示す。
- 発表が苦手な生徒には、型カードの空欄をうめた文を読み上げるだけでよいとする。

発展

- ベトナムの10月20日の「ベトナム女性の日」について調べ、3月8日とのちがいを英語で説明する。
- アメリカの Women's History Month の授業で取り上げられる人物を1人調べて紹介する。
- アクティビティ集 B5 国くらべで、8か国を表にまとめる。

使う教材

- このサイトの記事の国別くらべ
- アクティビティ集 B5（国くらべ）
- このサイトの英語ページ本文と音声



4. 数字で見るジェンダーギャップ・ディベート

授業手順書（詳細版）／対象：大学／45分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

ジェンダーギャップの統計と advanced の英文を根拠に、Japan should set a quota for women in politics. について英語で意見を述べ、100語の意見文を書ける。

準備

- 資料：世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数2025年（日本は148か国中118位。教育・健康は差が小さく、政治・経済で大きく遅れている。G7で100位以内に入らなかったのは日本だけ）と分野別の結果（最新の報告書から先生が用意）
- advanced の英文「Flowers or Protest? The Two Faces of March 8」
- 根拠メモシート（統計・本文・その他の3欄）
- タイマー、ディベートの進行表

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	「日本はジェンダーギャップ指数で何位？」とクイズを出し、148か国中118位であることを示す。分野別の結果を見せ、どの分野で差が大きいかを予想させてから確かめる。	順位を予想し、分野別の結果を確かめる。	“Guess Japan's rank in the 2025 gender gap report.” “118th out of 148 countries.” “Which areas are the problem? Education, health, economy, or politics?”
展開1	8	advanced の英文を読ませ、第3段落の UN の数字（法的な権利は男性の64%）と日本の順位を確かめる。論題 Japan should set a quota for women in politics. を示し、quota の意味を確認して賛否に分ける。	英文を読んで統計を確認し、論題の意味を理解して賛否に分かれる。	“Read the passage. What does the UN number tell us?” “Here is the motion. Japan should set a quota for women in politics.” “A quota means a fixed number or percentage. For example, 30 percent of candidates.”
展開2	10	チームで根拠を3つ集めさせる（統計・本文・その他のほかの調べた事実）。2018年に成立した「政治分野における男女共同参画推進法」（候補者の数をできるだけ男女均等にしよう政党に求める法律）や、ほかの国のクオータ制を調べてよいとする。	チームで、統計・本文・調べた事実から根拠を3つ集め、立論を準備する。	“Find three reasons. Use the data, the passage, and your research.” “You can look up Japan's 2018 law on gender balance in politics.” “What do other countries do?”
展開3	14	立論（各2分）→ 質問（各1分）→ 作戦タイム（2分）→ 反論（各2分）→ 最終弁論（各1分）の順でディベートを行う。数字を引用するときは出典を言わせる。	統計と本文を根拠に、英語でディベートを行う。	“For team, two minutes. Please begin.” “Where is that number from? Tell us the source.” “Against team, answer their strongest point.” “Final statements, one minute each.”
まとめ	8	チームの立場とは別に、自分の本当の意見を英語で100語書かせる。advanced の英文最後の keep both faces of the day: gratitude and pressure for change にふれてもよいとする。	自分の本当の意見を100語の英文で書く。	“Now, what do you really think? Write 100 words.” “Use at least one number as evidence.” “You can finish with the writer's idea: gratitude and pressure for change.”

板書例

Gender Gap Report 2025 : Japan 118th / 148
 → education, health : small gap
 → politics, economy : big gap
 → only G7 country outside the top 100
 UN : women hold only 64 percent of the legal rights that men have

Motion : Japan should set a quota for women in politics.
 quota = a fixed number or percentage

立論2分 → 質問1分 → 作戦2分 → 反論2分 → 最終1分

評価のポイント

- 統計の数字を正しく読み取り、出典を示して引用できたか。
- ディベートで、統計・本文・調べた事実を根拠として使えたか。
- 意見文で、数字を根拠にした自分の考えを100語で書けたか。

つまづきへの手だて

- 統計の読み方に慣れていない学生には、分野別の結果を棒グラフにした資料を用意する。
- 英語で反論するのが難しい学生には、That's true, but ... / The data shows that ... の型を配る。
- 議論が個人攻撃にならないよう、はじめに「意見と人を分けて話す」ルールを確認する。

発展

- 1946年4月10日、日本の女性が初めて投票した選挙で39人の女性議員が誕生したことを調べ、今の数と比べる。
- 発展セットの summary と paraphrase に取り組む。
- 経済の分野（管理職の女性の割合など）で同じ論題をつくり、ディベートする。

使う教材

- 発展セット（advanced の英文と問題）
- このサイトの記事の「日本の国際女性デー」の節



5. 3分スピーチ：わたしの「すごい女性」

授業手順書（詳細版）／対象：英会話教室／20分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

She was born in 〜. / She is famous for 〜. などの人物紹介の表現を使い、自分が尊敬する女性について3分間スピーチができる。

準備

- 人物紹介の型カード：She was born in ... / She is famous for ... / I respect her because ... / I want to be like her because ...
- 例の人物カード2枚：Clara Zetkin（a German woman / in 1910, she said, "Let's have one women's day in every country."）、Yamakawa Kikue（a Japanese writer / in 1923, she called for the first International Women's Day meeting in Japan）
- スピーチのメモ用紙
- タイマー

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	例の人物カードを使い、先生がクララ・ツェトキンと山川菊栄を英語で短く紹介する。型カードの表現に下線を引かせ、人物紹介の流れ（生まれ → 何で有名 → 尊敬する理由）を確かめる。	先生の人物紹介を聞き、型の表現と流れを確かめる。	"Let me introduce two great women." "Clara Zetkin was a German woman. In 1910, she said, Let's have one women's day in every country." "Yamakawa Kikue was a Japanese writer. In 1923, she called for the first Women's Day meeting in Japan." "I respect them because they were brave."
展開1	5	自分が尊敬する女性（有名人でも家族でもよい）を1人選ばせ、その人の「すごいところ」を3つ英語でメモさせる。メモは文ではなく単語やフレーズでよいと伝える。	尊敬する女性を1人選び、すごいところを3つ英語でメモする。	"Choose one woman you respect. She can be famous or in your family." "Write three great things about her." "Just words and phrases are OK."
展開2	9	1人3分（質問をふくむ）でスピーチをする。メモを見てよいが、顔を上げて話すよう促す。聞き手は1つ質問をする（When did you meet her? / What is she doing now? など）。	メモを見ながら3分でスピーチし、聞き手からの質問に答える。聞き手は質問を1つする。	"You have three minutes, including questions." "Look up when you speak." "Listeners, ask one question. What is she doing now?"
まとめ	2	スピーチのよかった点を1つずつ伝え、よく使われた表現を板書してふり返る。次回までに、スピーチを作文として書いてくる課題を出す。	フィードバックを聞き、表現をふり返る。	"Great speeches, everyone!" "Homework: Write your speech as a short essay."

板書例

My Amazing Woman

She was born in ____.

She is famous for ____.

She ____ in ____ (過去の出来事)

I respect her because ____.

I want to be like her because ____.

Questions :

When did you meet her? / What is she doing now?

評価のポイント

- 人物紹介の型を使い、筋道立てて3分話せたか。
- 尊敬する理由を because で具体的に述べられたか。
- 聞き手の質問に、英語で答えられたか。

つまづきへの手だて

- 人物が決まらない受講者には、例の2人のどちらかを選んでよいとする。
- 3分話すのがむずかしい受講者には、まず1分を目標にし、質問のやりとりで時間をつなぐ。
- 過去形の使い方に迷う受講者には、生まれや出来事は過去形、今のことは現在形と、型カードに色分けしておく。

発展

- 1909年のニューヨーク、1910年のデンマークの会議、1911年の最初の国際女性デーなど、本文に出てくる出来事を年表にして英語で説明する。
- 基本セット p.7 の作文（A woman I respect is _____ because _____）に清書する。
- スピーチを録音し、英語ページの音声と聞きくらべて発音を見直す。

使う教材

- このサイトの英語ページ本文（第2・第3段落）と音声
- 基本セット p.7（作文）